

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294202078		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里一向敷地 <山側ユニット>		
所在地	静岡県駿河区向敷地1291-5		
自己評価作成日	令和1年11月22日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2294202078-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

弊社は平屋の建物で外観は白い壁で洋風ですが中に入ると和モダンで落ち着いた作りになっています。山側と川側の2ユニットで真ん中の壁を外すと両方が繋がって合同で行うイベントにはとても広い空間ができ伸び伸びとした動きができます。お風呂は可動式で入居者様の身体に合せて変えることができます。又各居室には安全性に考慮して低床ベッドを備え付けカーテンは優しい色合いにして壁も山側と川側の色を変え皆さんが落ち着いて暮らせるように案を出して出来上がりました。場所は緑の山と安倍川に囲まれ空は青く澄み、時々聞こえる鳥の声も軽やかな美声でのどかな雰囲気です。近くには向敷地公園があり時々散歩したりお弁当持参して利用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人における新卒採用7名の内2名が入職しており、新人教育に力を注ぐ法人とあって、礼節ある挨拶と言葉遣いが好印象の事業所です。2ユニット目のオープンを12月に控え、体制の再構築とともに地域交流に課題が残るものの、橋渡し役として心強い存在である建物のオーナーからは様々な情報が届いている点は今後に向け期待が膨らみます。10kgも痩せ足元もおぼつかない状態で入居した人には、「食べたいとき、好きなもの」と本人本位で努めた結果、歩行とともに気持ちも安定しています。他にも独居で食が萎えてしまった人が今では完食するようになった例もあり、理念「生き生き生きる」が実践されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年4月に開設し1年半経ちましたので企業理念が職員全員に周知されるようになりました。常に見える場所に企業理念を掲げ一日のスタートとして毎朝の朝礼時の最後には職員が交代で読み上げる事により全員が共有して実践につなげるようにしている。入居者様も加わる事もあります	理念は掲示するとともに朝礼で職員が読み上げています。食事が摂れていなかった人も完食するようになり、ベッドに上がってお掃除を始めてしまうほど活動的になっている姿に「生き生き生きる」の実践が覗えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所を散歩中ご挨拶したり地域の事業所の催しには利用者様を連れて参加させて頂いたりできる限りの交流を深めていくように努力している。近所のお茶屋さんへは散歩しながら買い物に行っている。	自治会に加入、回覧板は利用者と一緒に隣家に届けており、理解ある建物のオーナーとその親戚家族に囲まれて安心な隣近所関係が在り、蜂の巣を駆除してもらえたこともあります。今年度の実績としては近くの事業所まつりに出かけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所様にはご挨拶に回っている。又、顔を合わせた時には認知症について理解して頂くために説明をして大声を出したり、テレビの音を大きくしたり、ごみを窓から投げ捨てたりしてご迷惑をおかけしている事を謝罪している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の現況、行事等を報告し又町内会長、地域包括センター様のアドバイスを受けそれをこれからの運営に生かしていけるようにしております。	運営推進会議には町内会長は出席しない地域のため、地域情報が豊富な建物のオーナーを中心に、現況報告、情報交換後は身体拘束廃止委員会を併催しています。今後は社協職員の出席が見込まれ、介護相談員にも声をかける予定です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内等区役所に提出しているがお忙しい様子で欠席のお返事が来てます。介護相談員の受け入れについては12月よりお願いしてあります。又包括のアドバイスにより社協に依頼して1/16の運営推進会議より参加して頂く事になりました。	静岡市の運営推進会議出席は得られていませんが、議事録は年に一度まとめて提出しています。実地指導が1月に予定されており、毎年の集団指導のほか、3ヶ月に一度長田地域密着連絡会や地域包括支援センター主催の研修へも参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会では「身体拘束」についての勉強会を行ったり朝礼時にも何かあれば必ず話し合ったりしている。特に玄関の施錠については絶対しないこと、言葉の拘束はしない事等気をつけている。現在のスタッフは殆ど理解していると思う。	指針、マニュアルを整備のうえ、身体拘束廃止委員会は運営推進会議後の開催で2ヶ月に1度と、こまめに実施されています。フィジカルロック、スピーチロックの再確認やヒヤリハット、ニュースで取り上げられた問題等を話材にして認識を深めていることを議事録で確認しました。	身体拘束廃止委員会の内容が職員に周知徹底されていることがわかるような書面整理を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の定例会では「身体拘束」についても学ぶというものが虐待であるかスタッフ全員に周知してもらっている。又その場面を見たら注意、又は管理者に報告をするようにして防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ該当する方はいらっしゃらないがこの件については多くのスタッフが包括支援センターの勉強会などに参加するなどしてこれからの支援に生かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に必ずご本人、ご家族に見学をして頂きその際十分説明をして疑問点・質問等を伺いご理解や不安をなくしてから契約して頂いている。ご家族とのやり取りはまめに行うようにしてコミュニケーションをとるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族の要望を聴き記録に残してできる限り一人ひとり希望を叶えるようにスタッフ全員で共有している。職員に話せない事でも外部には話せる事もあると思い介護相談員を要請済みです。	半数余の家族が遠方なことも配慮し、体調変化を都度電話で伝え、面会では会話をもつよう努め、写真と管理者からのひと言を毎月の請求に添えています。行事には家族による琴演奏や読み聞かせ、指人形やケーキ作りと、事業所への惜しみない協力があります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員一人一人と接触するようにして意見・要望などを聴きそれを生かすように努力はしている。又、申し送りノートを活用して職員の意見・希望を出してもらい皆で検討したりしている。	年2回個人面談の機会がありますが、常々管理者から声をかけ、労いの言葉を発信しています。勉強会を含む定例会議が毎月あり、伝達事項と職員意見を記載した申し送りノートを情報共有ツールとして活用、必ず認めのサインを入れて確かなものとしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の自己評価、現場評価、テストの結果により昇給等の参考にしている。又、通常の勤務状況や実績を評価して3月の社員表彰式を行ってやりがいや向上心を持って働いてもらえるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社3年以内の職員には本場でフォローアップ研修を行ったり外部の講師を招いて勉強会を行っている。又他事業所の講習会なども進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この地域で行っている長田地域密着連絡会では昨年8月より参加させて頂き人材確保、避難時の準備用品等お互いに意見交換して情報を共有しサービス向上に取り組んでいる。又、徐々に新しい事業所も増え現在13事業所でネットワーク作りが出来ています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時はまだ慣れないこともあり寂しいをしたり不安にならない様職員ができる限り寄り添い関わりを持ちコミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面談時には必ずご挨拶をしてお話をする時間を設けご家族の希望や困ったことなどをお伺いして不安がないようにしている。又県外にご家族がお住まいの方についてはメールやお手紙(写真等送付)で近況報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には施設見学をして頂きご本人様と面談をしてアセスメントをとりその時点で必要としている事や希望、困った事を聞き取り担当の介護支援専門委員からの情報も提供して頂き初期対応の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はあくまでも施設の職員ではなくその時の状況により娘、息子、孫、友達になったりしてみんなで和気あいあいと一緒に暮らしている気持ちでいる。但しあくまでも馴れ合いにならない様尊敬の気持ちを忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族を尊重し思いを真摯に受け止め失礼の無い様に良い関係を持つように努めている。面会時にはご本人とご家族がゆっくりお話できるように場を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間を気にしないでいつでも来ていただけるように声掛けをしており来て頂いた際には職員一同笑顔で接するようしており場合によっては居室へご案内をしたりしてスタッフ全員が来やすい状況を作っている。現職員はきちんとできている。	事業所の繕いものを手伝う針仕事得意な人、居室に面会者のためのテーブルとカセットを置き、流れる好きな歌手の曲を家族と親しむ人もいます。またビーズ講師だった人は自身の作品を持ち込み、共用空間に飾り付けたものを誇らしげに眺めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場合によっては個別対応するときがあるができる限り職員、利用者が混じったりしてみんなで雑談したりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	オープン以来何件か終了したケースもありますが必ずお手紙に「たみの里だより」等添付して今までのお礼を出しています。又ボランティアなどのお願いでお付き合いを続ける関係性を作っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に話す機会を作り、今したい事、困った事、要望を聞きスタッフ皆が共有できるように記録に残して思いを叶えようとしている。スタッフはできる限り希望を叶えてあげたいと利用者に対する気持ちは強い。皆さん叶うと必ずお礼を言って下さいます。	職員には利用者を中心に置く姿勢があり、白いご飯が好きな人のために麺類の日にも白飯を用意したり、また未だ担当制は敷けてはいませんが「勤労感謝の日だからお寿司を食べたい」「外で食事をしたい」といった願いを日々叶えています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子をご家族、入所していた施設、介護支援専門員などの情報を提供して頂き今までと生活が大きく変化することがなく同じような生活が出来るようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時やその他職員同士顔を合わせた時はお互いに現状報告をしたり記録してスタッフ皆で周知し常に利用者の把握には努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会やカンファレンスでご本人、ご家族の要望等、ご本人の変化を職員間で共有し意見交換を行い介護計画を作成している。	「夫とカラオケや馴染みの理髪店に出かける日は、お化粧品や服選びのお手伝いをして笑顔で外出できるように」と、具体的な支援が介護計画書に位置付けられるとともに、「踊りが好きで前後を見ないことがあるので職員は必ず付き添う」といった細かな気づきも反映されています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士私的な話はしないでその分利用者にも目を向け気が付いたことは経過記録表、バイタルチェック表に詳しく記録しその場、朝礼時、会議時に話し合い情報の共有をしている。最近全体的に利用者にも目を向けることが多くなった。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	殆ど既存のサービスに捉われる事がなくご本人やご家族のニーズには柔軟に対応している。買い物、ドライブなど希望があれば管理者が都合をつけて対応している。			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物は近隣のお店を利用したりボランティアもなるべく近隣の方、利用者のご家族に協力を頂いている。今年の敬老会では本格的なお琴を披露して頂きましたが通常は発表会のみでこれもご家族が同居している事で特別にとの事です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月第一、第三金曜日に往診に来て頂き利用者様の状況を詳しく説明をして診て頂いている。常に医師との連携を図っており利用者様の状態に変化が見られた場合はすぐ担当医、看護師に連絡をして指示を仰ぎ重症化ないように努めている。	月2回訪問診療をおこなう協力医に9名中7名が変更しています。管理者不在時はその日の勤務者が立ち会いを担当、介護記録、連絡ノートに記録を残しています。中には家族が同席する人もいますが、結果報告は緊急性のある場合は電話で、他は毎月の手紙や面会で伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週に一度来て頂きバイタルチェックや状態を報告し利用者様の健康管理に努めている。必ず入居者それぞれの状況を報告したり相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現状ではまだ入院はされていないが利用者様の身体の変化や緊急事態の場合は訪問看護師に相談をしたり医療機関と連携をして情報交換することは承知している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り及び医療連携に関する指針」を作成し入居時にはご家族に説明をしている。現在職員の半数以上は他でも看取りを経験している事や定例会でも勉強している。今回看取りの方がいらっしゃいましたがご家族の気持ちを十分理解して対応に気をつけるよう取り組みました。	終末期については契約で書面説明する際、「重度化が予想される状況で改めて相談させてもらう」ことを家族に伝えてあります。今年度一名を見送っており、状態を案じて毎日通う家族と相談を重ね、家族が事業所で仕事をこなすという日もあって、「力を合わせて」取り組むことが叶っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎研修で本部の研修を受けている。又、毎月の定例会や朝礼時に指導したり主治医、訪問看護からの指導も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練については夜間帯を想定して入居者様、夜勤者全員が参加して行うことができた。火災については消防署より水消火器を借りて利用者様を交え使用方法の訓練を行った。町内会長より地震、水害については避難場所迄距離があるのでやたらに動かない方が安全ではないかとお話。	年2回の法定訓練では職員全員がメニューを体験できるよう配置しています。また「水害はハザードマップぎりぎりの地域」「避難地は小学校だが職員でも徒歩20分かかり動かないで事業所で待機の方が賢明」といった具体的な助言が建物オーナーから得られています。	開設以来、消防署職員の立合いはないため、専門家のアドバイスがもらえることを期待します(事業所は度々アプローチはしたとのこと、協力が得られる工夫を引き続きお願いします)。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉掛けをすることや不適切な言葉遣いをしない様接遇については十分指導しているがそれが見られた時は管理職がその時点で呼び注意、指導している。現職員には殆ど見られない。	他利用者の部屋を開けてしまうといった利用者同士のいさかや人間関係には必ず職員が間に入り、双方の自尊心を傷つけないよう支援しています。接遇に力を入れる法人の新人研修が活きて、共用空間には礼節をわきまえた丁寧な言葉遣いが光ります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューや外出先を決める際、必ずそれぞれの希望を伺い皆さん全員が順番に叶えるようにしている。又欲しい物はご本人を連れて好みの物を決めて頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は自分の仕事を優先するのではなく経営方針でもある「お客様第一主義に徹する」の通り一人ひとりの要望・希望に沿いゆったりと暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みやおしゃれの把握をしてその人らしいお洒落を支援している。男性には髭剃り等、女性には一緒に洋服を選んだり冬にはホットタオルで顔を拭いてクリームや化粧水をつけたりお化粧をしている方にはお手伝いをしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	長事作りの際、もやしのおひけ取りや餃子作りなど職員と一緒に食前、食後にはテーブルを拭いて頂いたり片付け、食器ふき等は職員と会話をしながらお手伝いをして頂いている。時には味見をして頂きアドバイスを受けることもある。お楽しみメニューはリクエストを聞いて決めている	配達された食材で職員が手作り調理する取組みのため、新人職員は自宅でも練習するほど熱心に向き合っています。肉メニューが重ならないよう配慮し、週に一度お楽しみ献立として希望を取入れてもいます。外食も楽しみで、回転寿司やとろろご飯、しらす丼が人気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録は必ずしており職員は利用者により食べる量をほぼ把握してその方にあつた量、形状を把握して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをしてご自分でできる人は無理の無い程度にやって頂き介助の必要な人にはお手伝いをしている。就寝前には義歯洗浄、消毒をして保管している。ご家族には歯の状態を報告し希望があれば訪問歯科の受診を受け口腔環境の改善をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはオムツ等は使用せずトイレで排泄する事を目標にしている。現在オムツの利用者はいないが体調や状況によりリハビリパンツを使用している。日中はなるべく排泄パターンを把握してトイレ誘導し無理の無いよう支援している。	約半数がリハビリパンツを利用しています。失敗で落ち込んだり、慌てて隠そうとしたり、リハビリパンツに慣れず気になって破いてしまう人もいますが、排泄リズムを把握のうえ早めにトイレに誘い、さりげなく見守り、自尊心に気遣っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタルチェック表に記録して毎朝申し送り時に便秘が何日目であるか確認。利用様により担当医と相談の上、便秘薬の調整して大事に至らないようにスタッフ全員で取り組んでいる。又毎朝食時には必ずヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の予定だが好きな利用者様にはできる限り入って頂いている。又、拒否される入居者様には声かけに注意しスタッフを変えたり時間をおいて何気なく声掛けをして強引にならないように気持ちよく入って頂く。車椅子の方も浴槽に入れるよう努めている。	週2~3回を清潔の目安としていますが、入居時に「一ヶ月入らなかった」という人には試行錯誤で検討、現在は外へ出た後は早く入れることもわかり、少し前進しています。浴槽は可動式ですが、現在麻痺がある人はおらず固定しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ケアプランにも載せているが今までの生活習慣を壊さないようにその方の状況に合わせて入眠、起床時間等決めて安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬をしないようその日の分を並べ当日勤務のスタッフ同士は声かけをして必ず確認、又入居者様にも確認をして服用して頂いている。服用の仕方もその入居者様に合わせている。時々床に落ちていることがあるので服薬するまで確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	強制ではなくその人の得意とするお手伝いをやって頂く。(ボタン付け、衣服の繕い、食器ふき、モップ掛け、洗濯物干し、洗濯物量み等)又、コーヒーを自宅で愛飲されていた利用者には毎朝食後、お誕生日などでプレゼントした個人のソーサー付きのコーヒーカップに入れて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お天気の良い日はできるだけ散歩や駐車場での日光浴、会話などをしたり月に一度の外出、外食を行うことにより気分転換をして頂きホーム内のみの生活にならない様支援している。又、管理者が外出時には一緒に連れて行くように心掛けている。	天気が良くて風のない日には事業所周辺や公園までのコースを散歩、弁当持参の日もあります。落ち着かない人には、ミニドライブで富士山を眺めて気分転換を図ったり、月に一度は全員外出の予定を組み、3月いちご狩り(藤枝)、4月は桜と季節の移ろいを訪ねています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失して不穩になったりするので本来は預かったり所持はしていませんがどうしてもという入居者様についてはご家族承知の上で所持しています。但し少額でお願いしています。ご本人が買いたいものがある場合は管理者が付き添って行きます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1回は必ず電話をしたくなる入居者様がいますのでその時は電話をしていますがご家族には承知をして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが落ち着いて暮らせるようにホール、居室、トイレの壁の色に気を使い、テーブル、椅子、カーテンはオーダーでシックなものにしたり全体的にほぼゆったり暮らせるようにしています。ソファで寝転んでつろいでいる姿がよく見られます。	共用空間には外食や外出、防災訓練、バーベキュー、敬老会、蕎麦の実の定植といった行事写真が踊り、また壁面には時節感あふれる協同作品が掲げられています。また飾られたミニリースは自身の作品として、利用者が自慢顔で説明くださいました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごされているホールではテーブルの位置等その時の状況に合わせて変えている。又ソファで横になったりテレビを鑑賞されたりしてゆっくり過ごして頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具、仏壇や装飾品、ご自分の作品、ご家族の写真等飾ったり又お食事に使用する茶碗、お椀、箸、湯呑みなどは今までご自宅で使用していた物を持参して頂いて見慣れた中で安心して過ごせるようにしている。	愛犬や母親の写真に見守られている部屋や、牛乳パックと千代紙で爪楊枝入れ作りに励んだり、日記をつけるなど、その人らしさが滲む居室もあります。他にも携帯やテレビ、チェスト、仏壇の持込みもみられ、のびのびとした自由さが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面台、浴室は最初からドアに字や絵をつけ各居室は花の絵の名札に名前をつけてご本人が迷うことがないようにしている。見守りは必ずするが出来る限りご自分で自立した生活が出来るよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294202078		
法人名	特定非営利活動法人 シンセア		
事業所名	グループホーム たみの里一向敷地 (12月15日オープン予定)		
所在地	静岡県駿河区向敷地1291-5		
自己評価作成日	令和1年11月22日	評価結果市町村受理日	令和2年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2294202078-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

弊社は平屋の建物で外観は白い壁で洋風ですが中に入ると和モダンで落ち着いた作りになっています。山側と川側の2ユニットで真ん中の壁を外すと両方が繋がって合同で行うイベントにはとても広い空間ができ伸び伸びとした動きができます。お風呂は可動式で入居者様の身体に合せて変えることができます。又各居室には安全性に考慮して低床ベッドを備え付けカーテンは優しい色合いにして壁も山側と川側の色を変え皆さんが落ち着いて暮らせるように案を出して出来上がりました。場所は緑の山と安倍川に囲まれ空は青く澄み、時々聞こえる鳥の声も軽やかな美声でのどかな雰囲気です。近くには向敷地公園があり時々散歩したりお弁当持参して利用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人における新卒採用7名の内2名が入職しており、新人教育に力を注ぐ法人とあって、礼節ある挨拶と言葉遣いが好印象の事業所です。2ユニット目のオープンを12月に控え、体制の再構築とともに地域交流に課題が残るものの、橋渡し役として心強い存在である建物のオーナーからは様々な情報が届いている点は今後に向け期待が膨らみます。10kgも痩せ足元もおぼつかない状態で入居した人には、「食べたいとき、好きなもの」と本人本位で努めた結果、歩行とともに気持ちも安定しています。他にも独居で食が萎えてしまった人が今では完食するようになった例もあり、理念「生き生き生きる」が実践されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年4月に開設して1年半経ちましたので企業理念が職員全員に周知されるようになりました。常に見える場所に企業理念を掲げ一日のスタートとして毎朝の朝礼時の最後には職員が交代で読み上げる事により全員が共有して実践につなげるようにしている。入居者様も加わる事もあります		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩中ご挨拶したり地域の事業所の催しには利用者様を連れて参加させて頂いたりできる限りの交流を深めていくように努力している。近所のお茶屋さんへは散歩しながら買い物に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所様にはご挨拶に回っている。又、顔を合わせた時には認知症について理解して頂くために説明をして大声を出したり、テレビの音を大きくしたり、ごみを窓から投げ捨てたりしてご迷惑をおかけしている事を謝罪している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様の現況、行事等を報告し又町内会長、地域包括センター様のアドバイスを受けそれをこれからの運営に生かしていけるようにしております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内等区役所に提出しているがお忙しい様子で欠席のお返事が来てます。介護相談員の受け入れについては12月よりお願いしてあります。又包括のアドバイスにより社協に依頼して1/16の運営推進会議より参加して頂く事になりました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の定例会では「身体拘束」についての勉強会を行ったり朝礼時にも何かあれば必ず話し合ったりしている。特に玄関の施錠については絶対しないこと、言葉の拘束はしない事等気をつけている。現在のスタッフは殆ど理解していると思う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の定例会では「身体拘束」についての勉強会を行っているがその際「虐待防止」についても学びどういものが虐待であるかスタッフ全員に周知してもらっている。又その場面を見たら注意、又は管理者に報告をするようにして防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ該当する方はいらっしゃらないがこの件については多くのスタッフが包括支援センターの勉強会などに参加するなどしてこれからの支援に生かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に必ずご本人、ご家族に見学をして頂きその際十分説明をして疑問点・質問等を伺いご理解や不安をなくしてから契約して頂いている。ご家族とのやり取りはまめに行うようにしてコミュニケーションをとるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族の要望を聴き記録に残してできる限り一人ひとり希望を叶えるようにスタッフ全員で共有している。職員に話せない事でも外部には話せる事もあると思い介護相談員を要請済みです。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員一人一人と接触するようにして意見・要望などを聴きそれを生かすように努力はしている。又、申し送りノートを活用して職員の意見・希望を出してもらい皆で検討したりしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の自己評価、現場評価、テストの結果により昇給等の参考にしている。又、通常の勤務状況や実績を評価して3月の社員表彰式を行ってやりがいや向上心を持って働いてもらえるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社3年以内の職員には本部でフォローアップ研修を行ったり外部の講師を招いて勉強会を行っている。又他事業所の講習会なども進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この地域で行っている長田地域密着連絡会では昨年8月より参加させて頂き人材確保、避難時の準備用品等お互いに意見交換して情報を共有しサービス向上に取り組んでいる。又、徐々に新しい事業所も増え現在13事業所でネットワーク作りが出来ています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時はまだ慣れないこともあり寂しいをしたり不安にならない様職員ができる限り寄り添い関わりを持ちコミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面談時には必ずご挨拶をしてお話をする時間を設けご家族の希望や困ったことなどをお伺いして不安がないようにしている。又県外にご家族がお住まいの方についてはメールやお手紙(写真等送付)で近況報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には施設見学をして頂きご本人様と面談をしてアセスメントをとりその時点で必要としている事や希望、困った事を聞き取り担当の介護支援専門委員からの情報も提供して頂き初期対応の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はあくまでも施設の職員ではなくその時の状況により娘、息子、孫、友達になったりしてみんなで和気あいあいと一緒に暮らしている気持ちでいる。但しあくまでも馴れ合いにならない様尊敬の気持ちを忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族を尊重し思いを真摯に受け止め失礼の無い様に良い関係を持つように努めている。面会時にはご本人とご家族がゆっくりお話できるように場を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間を気にしないでいつでも来ていた頂けるように声掛けをしており来て頂いた際には職員一同笑顔で接するようしており場合によっては居室へご案内をしたりしてスタッフ全員が来やすい状況を作っている。現職員はきちんとできている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場合によっては個別対応するときがあるができる限り職員、利用者が混じったりしてみんなで雑談したりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	オープン以来何件か終了したケースもありますが必ずお手紙に「たみの里だより」等添付して今までのお礼を出しています。又ボランティアなどのお願いでお付き合いを続ける関係性を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に話す機会を作り、今したい事、困った事、要望を聞きスタッフ皆が共有できるように記録に残して思いを叶えようと努めている。スタッフはできる限り希望を叶えてあげたいと利用者に対する気持ちは強い。皆さん叶うと必ずお礼を言って下さいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子をご家族、入所していた施設、介護支援専門員などの情報を提供して頂き今までと生活が大きく変化することがなく同じような生活が出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時やその他職員同士顔を合わせた時はお互いに現状報告をしたり記録してスタッフ皆で周知し常に利用者の把握には努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会やカンファレンスでご本人、ご家族の要望等、ご本人の変化を職員間で共有し意見交換を行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士私的な話はしないでその分利用者にも目を向け気が付いたことは経過記録表、バイタルチェック表に詳しく記録しその場、朝礼時、会議時に話し合い情報の共有をしている。最近全体的に利用者にも目を向けることが多くなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	殆ど既存のサービスに捉われる事がなくご本人やご家族のニーズには柔軟に対応している。買い物、ドライブなど希望があれば管理者が都合をつけて対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物は近隣のお店を利用したりボランティアもなるべく近隣の方、利用者のご家族に協力を頂いている。今年の敬老会では本格的なお琴を披露して頂きましたが通常は発表会のみでこれもご家族が入居している事で特別にとの事です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月第一、第三金曜日に往診に来て頂き利用者様の状況を詳しく説明して診て頂いている。常に医師との連携を図っており利用者様の状態に変化が見られた場合はすぐ担当医、看護師に連絡をして指示を仰ぎ重症化しないように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週に一度来て頂きバイタルチェックや状態を報告し利用者様の健康管理に努めている。必ず入居者それぞれの状況を報告したり相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現状ではまだ入院はされていないが利用者様の身体の変化や緊急事態の場合は訪問看護師に相談をしたり医療機関と連携をして情報交換することは承知している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り及び医療連携に関する指針」を作成し入居時にはご家族に説明をしている。現在職員の半数以上は他でも看取りを経験している事や定例会でも勉強している。今回看取りの方がいらっしゃいましたがご家族の気持ちを十分理解して対応に気をつけるよう取り組みました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎研修で本部の研修を受けている。又、毎月の定例会や朝礼時に指導したり主治医、訪問看護からの指導も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練については夜間帯を想定して入居者様、夜勤者全員が参加して行うことができた。火災については消防署より水消火器を借りて利用者様を交え使用方法の訓練を行った。町内会長より地震、水害については避難場所迄距離があるのでやたらに動かない方が安全ではないかとお話。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉掛けをすることや不適切な言葉遣いをしない様接遇については十分指導しているがそれが見られた時は管理職がその時点で呼び注意、指導している。現職員には殆ど見られない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニューや外出先を決める際、必ずそれぞれの希望を伺い皆さん全員が順番に叶えるようにしている。又欲しい物はご本人を連れて好みの物を決めて頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は自分の仕事を優先するのではなく経営方針でもある「お客様第一主義に徹する」の通り一人ひとりの要望・希望に沿いゆったりと暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みやおしゃれの把握をしてその人らしいお洒落を支援している。男性には髭剃り等、女性には一緒に洋服を選んだり冬にはホットタオルで顔を拭いてクリームや化粧水をつけたりお化粧をしている方にはお手伝いをしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	長事作りの際、もやしのみけ取りや餃子作りなど職員と一緒に食前、食後にはテーブルを拭いて頂いたり片付け、食器ふき等は職員と会話をしながらお手伝いをして頂いている。時には味見をして頂きアドバイスを受けることもある。お楽しみメニューはリクエストを聞いて決めている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録は必ずしており職員は利用者により食べる量をほぼ把握してその方にあつた量、形状を把握して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをしてご自分でできる人は無理の無い程度にやって頂き介助の必要な人にはお手伝いをしている。就寝前には義歯洗浄、消毒をして保管している。ご家族には歯の状態を報告し希望があれば訪問歯科の受診を受け口腔環境の改善をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはオムツ等は使用せずトイレで排泄する事を目標にしている。現在オムツの利用者はいないが体調や状況によりリハパンやパットを使用している。日中はなるべく排泄パターンを把握してトイレ誘導し無理の無いよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタルチェック表に記録して毎朝申し送り時に便秘が何日目であるか確認。利用様により担当医と相談の上、便秘薬の調整して大事に至らないようにスタッフ全員で取り組んでいる。又毎朝食時には必ずヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3回の予定だが好きな利用者様にはできる限り入って頂いている。又、拒否される入居者様には声かけに注意しスタッフを変えたり時間をおいて何気なく声掛けをして強引にならないように気持ちよく入って頂く。車椅子の方も浴槽に入れるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ケアプランにも載せているが今までの生活習慣を壊さないようにその方の状況に合わせて入眠、起床時間等決めて安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬をしないようその日の分を並べ当日勤務のスタッフ同士は声かけをして必ず確認、又入居者様にも確認をして服用して頂いている。服用の仕方もその入居者様に合わせている。時々床に落ちていることがあるので服薬するまで確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	強制ではなくその人の得意とするお手伝いをやって頂く。(ボタン付け、衣服の繕い、食器ふき、モップ掛け、洗濯物干し、洗濯物量み等)又、コーヒーを自宅で愛飲されていた利用者には毎朝食後、お誕生日などでプレゼントした個人のソーサー付きのコーヒーカップに入れて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お天気の良い日はできるだけ散歩や駐車場で日光浴、会話などをしたり月に一度の外出、外食を行うことにより気分転換をして頂きホーム内での生活にならない様支援している。又、管理者が外出時には一緒に連れて行くように心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失して不穩になったりするので本来は預かったり所持はしていませんがどうしてもという入居者様についてはご家族承知の上で所持しています。但し少額でお願いしています。ご本人が買いたいものがある場合は管理者が付き添って行きます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月に1回は必ず電話をしたくなる入居者様がいますのでその時は電話をしていますがご家族には承知をして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが落ち着いて暮らせるようにホール、居室、トイレの壁の色に気を使い、テーブル、椅子、カーテンはオーダーでシックな物にしたり全体的にほぼゆったり暮らせるようにしています。ソファで寝転んでつろいでいる姿がよく見られます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中過ごされているホールではテーブルの位置等その時の状況に合わせて変えている。又ソファで横になったりテレビを鑑賞されたりしてゆっくり過ごして頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具、仏壇や装飾品、ご自分の作品、ご家族の写真等飾ったり又お食事に使用する茶碗、お椀、箸、湯呑みなどは今までご自宅で使用していた物を持参して頂いて見慣れた中で安心して過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面台、浴室は最初からドアに字や絵をつけ各居室は花の絵の名札に名前をつけてご本人が迷うことがないようにしている。見守りは必ずするができる限りご自分で自立した生活が出来るよう支援している。		